

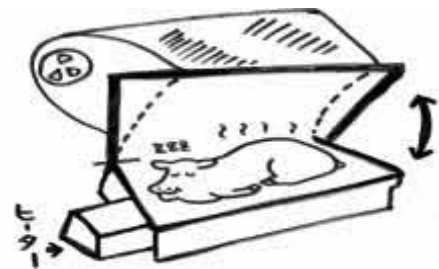
カーフウォーマー使用時の注意点

出生後に子牛の被毛が濡れていると①体温を奪われる、②エネルギーを急激に消費、③ほ乳意欲の低下、④免疫抗体（免疫グロブリン）の吸収能力の低下を引き起こします。

そのためこれからの季節は、早期に子牛を乾かし、寒冷ストレスを防ぐことを目的として「子牛加温器（カーフウォーマー）」の使用頻度が増えることが考えられます。以下の注意点を参考に有効に活用しましょう。

カーフウォーマーとは？

出生直後の子牛を早期乾燥させるドーム型の加温器の事です。カーフハッチ等に移動する前の出生子牛を入れ、ドーム内の下部から温風をあてる事で、濡れている子牛の乾燥と保温ができます。



図：カーフウォーマー

1. 掃除をこまめに行いましょう

- ① カーフウォーマーが病原体の感染源にならないよう、使用後は内部の壁や網についた糞尿を高圧洗浄機等で洗浄し、消毒薬（パコマ等）で殺菌消毒しましょう。
- ② 冬期間は、ヒーター・送風とも最大にして一回乾かすと内部の糞尿の汚れが取りやすくなります。

2. 子牛を入れる前にすること

- ① 初乳の吸収を良くするため、母牛に舐めさせる（リッキング）をさせましょう。出来ない場合は、ワラやタオルを使用して子牛をマッサージしましょう。
- ② 臍帯炎を予防するため、ヘソの緒はイソジンや希ヨードチンキ（ヨウ素3%）でどぶ漬けによる消毒をしましょう。

3. 時々、中の子牛の様子を見ましょう

- ① カーフウォーマーに入れる時間は、子牛の被毛が乾く3～6時間を目安としましょう。
- ② 長時間入れすぎると脱水症状を起こす可能性があるため、換気口を開け6時間を超えたら中の子牛の状態を確認し、初乳の給与をしましょう。

4. 注意事項

- ① 電気を使用するため、火災予防のためヒーターの周囲や子牛を載せる網の下には麦稈や乾草など可燃物のない状態で使用しましょう。
- ② 管理作業中にフタが閉まって出られなくなる場合があります。周辺に障害物を置かないようにしましょう。